

# 様式 2

## 平成24年度 第1回安曇野市図書館協議会 会議概要

- 1 審議会名.....平成24年度 第1回安曇野市図書館協議会.....
- 2 日.....時.....平成24年7月12日.....午後1時30分から午後3時00分まで
- 3 会 場.....豊科交流学習センターきぼう 学習室1.....
- 4 出席者.....内田会長、田村副会長、丸山委員、野本委員、青木委員、牛越委員、降幡委員、須澤委員、木船委員、会田委員、新沢委員、今泉委員.....
- 5 市側出席者.....丸山教育長、小松教育次長、三澤文化課長、青柳中央図書館長、宮下豊科図書館長、清水三郷図書館長、丸山掘金図書館長、百瀬明科図書館長、深澤図書館係長、勝家図書館係主事.....
- 6 公開・非公開の別.....公開.....
- 7 傍聴人.....0人.....記者.....0人.....
- 8 会議概要作成年月日.....平成24年7月23日.....

### 協 議 事 項 等

#### 1 会議概要

- (1) 開会 (三澤文化課長)
- (2) あいさつ (丸山教育長)
- (3) 委嘱書交付
- (4) 自己紹介
- (5) 図書館協議会委員の職務について
- (6) 会長及び副会長の選出について  
会長に内田委員、副会長に田村委員を選出
- (7) 報告事項
  - ① 平成24年度事業計画概要について
- (8) 協議事項
  - ①平成23年度事業報告について
  - ②安曇野市図書館満足度調査実施について
- (9) 閉会 (小松教育次長)

#### 2 審議概要

- (1) 平成24年度事業計画概要について
- (2) 平成23年度事業報告について

(委員)

おはなし会の参加人数は、中央図書館は大人と子供で分かれて人数が出ているが、他の図書館は全体でということか。

(事務局)

統計上は大人と子供で分けて人数を入力しているが、資料の人数は全体という意味。

(委員)

事業報告をいただいたが、基本方針の項目が図書館のどの事業に当てはまっているのかが分かりにくい。図書館がこういうことをやろうとしたけれども、これだけできて、これだけでできなかったというのが分かりにくいという感想を持った。

(委員)

基本計画における重点事業 (5) のレファレンスサービスの充実について、平成23年度はどのようなことを展開されたのか。

(事務局)

国会図書館に照会をかけたたり、検索したものを提供している。

(委員)

おっしゃっていることは分かりますが、充実というからには前年度より沢山やるとか、充実という言葉の重みとか、このあたりはどういうことを施行するのか。

(事務局)

今まででしたらレファレンスといっても資料がなかった。中央館あるいは、豊科館が大きくなった段階で、資料があるということでそれに対して、司書がいかに関心を持むかということ。それと、データベースを入れた。レファレンスについてネット上に提供することは、安曇野市の場合はまだ行っていない。

(委員)

現在、一般の人はレファレンスという概念そのものがないだろうと。まず、図書館は本を読むところだけでなく、いろいろなものを調べるところですよということを教育していく必要がある。平成24年度事業計画には全く入っていない。もっと詳しくつくる必要があると思う。レファレンスを皆さん分からないと思うので、もっと分かりやすい窓口をつくる。その窓口は何をやる場所かを広報して教育していくのが大事ではないかと。

(会長)

非常に貴重なご意見をいただきました。参考にさせていただいて、より一層前向きな取り組みをしていただきたい。

(委員)

防災無線でおはなしのへや、おりがみのへやの放送をしている。見に行ってみたが、子ども3人、大人3人でやっていた。ちょっとさびしいような気がするのですが。

(事務局)

保育園の子たちが帰りによるのはまずいということと、ボランティアの都合もあり曜日が決まっている。また、児童館でもおはなし会をやっていたりと、余計減ってしまったということがある。

(委員)

児童館でもやっているのか。

(事務局)

同じ方がやっていたり、絵本の貸出している。同じような事業をやっていることも減っている原因かと思う。

(委員)

PRの仕方を工夫したらどうか。広報を頼りにしているようだが、必ずしも見ていない。少しでも多くの方に参加していただくためにはPRも必要だと思う。

(会長)

どこまで広報するのは大変難しい問題。できるだけ多くの方に分かっていただくような広報の仕方を考えて、これからも取り組んでいただくことをお願いできればと思う。

(委員)

各館で独自に事業をされているようですが、安曇野市として統一のテーマで安曇野の自然や歴史について各館が順番に講座をやるとか、統一性が見えにくいですが、あるのか。

(事務局)

全館事業の図書館フェスタで全館で協力してやりましょうというのはある。今のところ、歴史的なものをしていくというようなことはない。

(委員)

水に関する物語に地域性がある。水を大切にするというテーマであれば、明科ではこうだったか、豊科はどうか、穂高にはこういう問題があるのかということができるのではないかと。

(事務局)

明科はここ3年ほど地域をあげてということで、地域学習をしている。地域の方を掘り起こすということで、ところがあるテーマになると、公民館でもやっている。あの先生の話だったら何回も聞いてるよ、ということもある。なかなか講師が全体的にやっていくのが難しいかなと。関心がないと来ないし、水の問題になると、環境の方のフェアの方でやっている。

(委員)

十分検討していただければと思う。

(会長)

一つのご意見としてお伺いして、図書館としてやるべきことを考えてもらえればと思う。

(3) 安曇野市図書館満足度調査実施について

～事務局より説明～

(委員)

満足度調査は来館者をお願いすると思うが、図書館に来れない、行けない、来ないといった方たちの声を拾うアンケート調査の予定はあるか。

(事務局)

ホームページには載せる予定。それ以外については、今のところ考えていない。

(委員)

去年、市から無作為の抽出ということでアンケート調査が送られてきた。このような予定は。

(事務局)

ご意見として検討する。

(会長)

図書館を利用されている方から出てくる答えは満足しているという声が多いのではないかな。地域の図書館でこの図書館の資料も借りることができると言っても、その地域にも出てこられない人が高齢化社会で出てくる。その辺の人の声を吸い上げていくことを考えてやっていただければ、将来に向かったいいアンケート調査になるのではないかな。ぜひ、検討いただきたい。

(委員)

実際に全部やってみた。順番として、本を借りる頻度が最初に来るのはおかしい。来館の頻度のあとに、借りる頻度が来るべき。細かいことですが。

(事務局)

ありがとうございます。

(会長)

貴重なご意見をいただきましたので、直していただいた方がいいかなと思う。

(委員)

これは図書館に置いておいて、ご自由にお書き下さいということか。

(事務局)

その予定。

(委員)

それでは、気が付かない人や、めんどくさい人は書かないということか。

(事務局)

これを強制するという事は考えていない。お声かけはするかもしれませんが。

(委員)

結局そうするといいことのある人しか書かない。色んな人の意見が出てこなくなってしまうのではないかな。出てこない人の意見を吸えるような、アンケートにされたらもっといいのではないかな。例えば、小学生、中学生にもアンケートを頼むのか、小学生も職業のところにありますから、小学生来たら渡すのかなって思うのですが、でもそれにしても言葉が難しい。一体どういう人に答えてもらおうとしているのか、わからない。

(委員)

反対にどういう形でこのアンケートを利用していくのかを考えた方がいいのかなと思うのですが。アンケートを取って何をしたいこうと思ってるのか。

(事務局)

アンケートをとって、利用頻度、年齢層、性別等を分類したい。そういうことを把握して、使われない方々、年代層の引き込みの対策を図る。今の図書館のサービスについて不足している部分を洗い出して、それに対して対策を立てる。もちろん満足している部分につきましては、さらに伸ばすというような形でアンケートを実施していきたい。

(委員)

そういう風に考えたときには、図書館に来ていない人の意見を聞く必要はないのかなと反対に私は思う。アンケート見て、呼び込みを図るということに力を入れて、アンケートをとるということに関しては、このままいったらいいかなと思う。全体の意見をアンケートでとると考えなくて現行どおりにやられたらいいかなという風に捉えた。普通にアンケートに答えてくれた人の中で方向性を見つけていけば、それでサービス向上にはなるのかなと思う。

(事務局)

検討したい。

(会長)

来た人だけにやっていただく。そうすると出てきたアンケートにどの位の正確さがあるか。信頼性があるかというのが非常に疑わしい結果が出てきてしまう。気を付けませんと取り方によっては全然正反対の結果が出てしまう。間違った答えで、間違った対策をしてしまうことになる。先ほど出ました意見も参考にさせていただいて、真実が分かるようなアンケートをとっていただければと思う。ぜひご一考をお願いしたい。

(4) その他

